

3. 平成29年度改善意見の対応状況について(案)

平成29年度改善意見(平成29年7月13日)	実施状況(中間報告)
<p>(1) 鉄道助成業務の適正かつ効率的な執行 事前の補助金審査計画の策定、各審査担当者間の情報の共有により、鉄道助成業務の適正かつ効率的な執行に一層努めること。また、現地審査に当たっての審査日程の設定、人員等の配置の効率的な実施に努めること。</p> <p>(2) 鉄道事業者等への助成制度の浸透に向けた取組み 助成制度に関する情報提供と共に、助成制度に対する質問等を受けられる仕組みの構築を検討するなどにより、助成制度の浸透を図ること。</p> <p>(3) 第4期中期計画を策定する上での鉄道助成業務への適切な配慮 これまでの鉄道助成業務の経緯を踏まえ、鉄道助成業務の適正かつ効率的な実施が業務活動に徹底されるよう次期中期計画の策定に当たって、十分配慮すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金審査計画については、昨年度の審査結果から得た知見や情勢変化を考慮し、鉄道助成業務担当者間での連絡会において情報共有し、対応策の検討を行った上で策定する。 ・現地審査については、契約件数が一定程度を超える事業において行うことができるとしている抽出審査を、今年度も審査対象金額等を踏まえて抽出し実施する。 ・現地審査集中期間への対応策については、限られた人員と期間の中で審査実施箇所が地理的に近いエリアを考慮して行程を組むと共に、審査対象事業者との調整が整ったところから可能な範囲で前倒し審査を実施するなど、効率的な審査を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道助成業務に関する窓口メールアドレスを設定し、鉄道助成ガイドブック等の配布にあわせて周知した。これにより、随時質問等を受け付けると共に、適宜質問者に回答する仕組みを構築した。この仕組みを活用し一層の助成制度の浸透を図ることとしている。 <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道助成業務の適正かつ効率的な執行のため、第三者委員会からの改善意見の業務への反映、補助金審査業務のノウハウの承継及びスキルアップのための職員研修等が確実に実施できるように配慮した次期中期計画を策定する。